

2024年4月30日（火）

老球の細道794号

#### 4月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

楽しみしていた桜もあっという間に散り、潔さの美学を教えてくれた。今はチューリップ、スイセン、ツツジなどの花々に散歩の味付けをしてもらっている。孫たちは新学年を無事スタートして、念願のスラムダンク生活がスタートした。夕食の酒の肴にバスケットボールが戻って来た。子がかすがい、孫は生き甲斐、まだまだ楽しく生きられる。

##### 1・映画から

◆「愚か者はしゃべり、臆病者は黙り、賢い者は聞く」〈『ジョン・ウィック』キアヌ・リーブス主演〉：元殺し屋のジョン・ウィックが亡き妻の想いを託された犬を救うためにロシアンマフィアと戦うハードアクション映画の中で語られた言葉である。「賢者と愚者」の名言は数多くあるが、“臆病者”が入っているのは珍しい。

##### 2・読書から

◆「俳人は多くのことを知る必要はない、流行に左右される必要もない、ひとつのものを知れば、その最上の用い方を発見し、磨きをかければ良いと信じているようであった」〈『命なりけり』丹羽文雄著：河出書房〉：これだと思ふ戦術を見つけたら、それを完璧にこなせるまで練習をする。うまくいかないからとすぐに変更すべきではない。磨きをかけること。

◆「朝ならば、夜の前に死ぬと思え。夜ならば、翌日ありと頼むな。覚悟こそ尊べ。見苦しき死に様ぞ、恥の極みなる」〈『倫敦塔』夏目漱石：集英社〉：すべてに通じる哲学である“死を想え”。人生が永遠に続くかのように漠然と日常を過ごしている時に時々痛恨の一撃を。

##### 2・新聞等から

◆「元気じゃないけど、悪くないから」〈朝日：折々のことば〉：悪くないなら気にしない。

◆「やる価値のあることは、大抵は少しつらいものだから」〈朝日：ひと：鈴木知子〉：70歳をまえにインドの叙事詩研究で博士号を取得した人の言葉である。何事も少しつらいことをやり遂げないと生きる喜びは感じないだろう。歩くのも負荷をかけないと効果はない。

◆「“続ける”という意志、“続けられた”という経験と記憶は長い人生の支えになる。それは地味だけど、事あるごとに心の中でひそかに握りしめられる武器にもなりえる。そう育ててくれた母に、今はとても感謝してる」〈朝日：声〉：福澤諭吉も”心訓七則“で言っている。世の中で一番楽しく、立派なことは、一生涯を貫く仕事を持つことであると。

◆「“天気がいいですね”でも何でもいい。ちょっとした挨拶で、一日が幸せな気分になることはあるのだ」〈朝日：天声人語〉：リハビリで町内をウォーキングするようになってから、挨拶をかわす人たちが増えた。怖そうに見えた人たちが皆いい人たちだった。

◆「good locker room guy」〈朝日：自由自在〉：プレイのみならず、ピッチ（コート）外の振る舞いで、仲間を盛り上げ、いい雰囲気を作る存在をこう呼ぶという。このような選手を数多く持った指導者は幸せである。